

目白山岳会 登山のヒント集 (2024年1月)

あなたの山はもっと楽しくなる

●「ハセツネ」で知られる山岳耐久レース・長谷川恒夫 CUP(71.5キロ)ですが、昨年はじめて、自然保護の観点から「歩行区間」が設定されました。エリート枠200人を除く一般参加者は、三頭山周辺1.9キロメートルが走行禁止になったのです。

参加者は1878人。男子優勝者は38歳で7時間20分14秒。同女子は30歳、8時間53分10秒。一般参加では、男性52歳、8時間56分36秒(25位)が最高となりました。 【島崎さんから新聞情報をいただきました】

●モンベル会長の辰野勇さんの言です。

日本では遭難が出ると「無謀だ」という声が多数を占めます。「若者は挑戦を！」と言いながら失敗すると叩かれるのでは、挑戦する心は萎えてしまいます。堀江謙一さんがヨットで太平洋横断を試みた時、日本では否定的意見が多数でしたが、その成功をアメリカで喝采されると、「快拳だ」と手のひらを返しました。

皆が大冒険に挑むわけではありませんが、誰も踏み入れてない領域に挑む人を「応援」する心は大切にしたいものです。

【島崎さんから新聞情報をいただきました】

●高校や大学で、登山や野外活動を楽しむ「山岳部」ではない、「野外活動部」「探検部」などの設立が増えてきました。上下関係のない付き合いの中で、「山登り」「山菜採り」「シュノーケリング」「ケイビング」「サップ」など多様な活動を行っています。多くは日帰りか1泊程度。今の学生は、学費・生活費のアルバイト時間が長く、長期の休みも取りづらいので、定例会や連絡もSNSなどを使うことが多いそうです。

●山道具店発表の「靴を新調する動機」。1位「靴の劣化」、2位「足が疲れる、足に合わない」につづく3位は「山行形態の変化」という結果があります。岩稜・長時間・重荷登山をしなくなった人が、よりライトな靴に履き替えているのです。軽いトレッキングシューズの種類も増え、選択肢も多くなっているので、買う買わないは別にして、時間がある時にはお店をのぞいてみましょう。